

全日本中学生水の作文コンクール中央審査会特別賞（優秀賞）

清い水のために

東京都 東京中華学校 二年 潘 庸晶

「清い水」といえば、京都の清水寺を参拝する際、手と口を清める「禊の水」を思い出す。古来日本は水によって不浄なものや罪で穢れた者を浄める儀式があるが、これは水が常に清いものであるという意識が日本人の根底にあるからといえる。この国は世界「清い水」に恵まれた国だ。大抵の川はきれいな水が流れているし、どここの水道水もそのまま飲む。これは日本が高度な技術により自然環境を護る努力を重ねてきた結果である。これらの技術で清い水を提供してくれることに私たちは感謝しなければならぬ。

しかし私が日本人の日常の水の使い方についても驚いているのも事実だ。私は中国に生まれ、日本で育ったが、水はまさに中国人の命そのものであった。入浴するときにはシャワーで済ませるし、洗濯の残り水でトイレを流す。できる限り節水するのが常識だ。欧米、豪州、そしてアフリカ、つまり世界の殆どの地域で、水は限りある大切な資源であるという認識は共通している。だが、日本に住んでいると、水を無駄遣いする光景をよく見かける。蛇口を開け放しにしたり、浴槽の水を毎日替えて風呂に入ったたりすることは中国人の私には理解し難い。「湯水のように使う」という表現が「無駄遣いする」という意味で使われる国は恐らく日本だけだろう。中国では「清い水」というものが少ない。工業排水と生活排水の70%が未処理のまま、これが公害の原因となっている。北京のような大都市の水道水にも、日本では感じることはない泥やサビの臭いがし色も濁っていて、そのまま飲むと下痢をする。つまり水不足以上に深刻なのが水汚染である。生活排水に含まれる有害物質が、河川や海を汚し魚貝類を汚染する。

世界的に水問題は他人ごとではなく、日本にも深く関係している。水は人類の共同資源で、国境を越えて循環している。世界は水の運命共同体といえる。中国の水汚染はいずれ日本にも影響を与えるようになる。日本は食料を大量に輸入しており、もし輸入先の国が水不足になれば、

日本への輸出を中断してしまうかもしれない。食料自給率の低い日本にとって大打撃となるだろう。

では今、私たちは何をすべきか。日本は高度な技術力に支えられた水大国としての自負をもって、世界をリードし、積極的に水問題の解決に取り組むべきだと考える。次の三点について、先ずアジア諸国で活躍して欲しい。

① 節約の知恵による技術の手本となる

日本人の「心遣い」が表れた最新技術による漏水防止技術、給水制度、節水設備たとえば水を使わず排泄物を封じるトイレなど。

② 汚染処理技術の提供

日本は高度経済成長がもたらした汚染を除去、清浄化するための世界最高レベルの技術力を有する。微生物や植生による浄化を含め、ダム貯水池における冷水放流、濁水長期化、富栄養化等の対策などを積極的に提供していくべき。

③ 海水の淡水化技術の提供

世界一優れた海水淡水化技術を他国と共有し、この美しい地球に貢献すべきだと思う。この淡水化技術が世界各地にあれば、どの国も水不足から脱し、豊かな農業をも可能にできるだろう。

国の政策だけでなく、まず私たち一人一人の水に対する意識を高めることも大切である。その上で官民あげて各国が協力し合い、このような活動を世界に広めるべきだと痛感する。

人間の涙がしょっぱいのは、祖先が海の中で誕生したためといわれている。世界の水の最後の一滴が、人類の涙とならないために、私たちはこの地球の水を守る義務と責任がある。私たちが代々残すべきものの一つが「清い水」である。この国の技術と精神が、水のように国境を越え、世界を救う日が来ることを祈りつつ。